



2007/08 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報



第 2163 回例会 2008 年 4 月 9 日(水) SAA / 川島会員 会報担当 / 伊藤会員

例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535

点 鐘 市原 RC 会長 角谷修
ソング 我等の生業 四つのテスト唱和
お客様 なし

会長挨拶 市原 RC 会長 角谷修



皆さん こんにちは！

中国のチベットでの騒乱を受け、欧米各国で北京オリンピックの開会式への不参加や聖火リレーへの妨害と何となく騒がしい世情です。政治とスポーツは切り離して考えるべきだ...いや中国の実態は民主化とは程遠い...等いろいろな主義主張が入り混じって賛否もそれぞれ様です。ソビエト時代のモスクワオリンピックの時もこの問題がこじれ不参加国が続出し、日本もその一国であった事を思い出します。歴史は繰り返し世界は広くその考え方も立場に依って変わらずに平行線を辿るが如くです。

今日は上條会員に卓話をお願いしてありますが、ご存知の通り我がクラブ内きっての国際派であり、とりわけマレーシア ペタリングジャヤロータリークラブと我がクラブとの姉妹クラブとしての実践と友好に大きな足跡を残された方です。今日の世界状況は上條さんにはどう映るのか？又 真の国際交流とはどうあるべきか？貴重なご意見を拝聴してください。

幹事報告 幹事 斎藤栄志



AED 普及チャリティコンサート開催のご案内

5/14(水)18:30 ~ ホテルザマンハッタン 会費 15,000 円

会員卓話 上條優雄会員



「姉妹クラブ ペタリングジャヤ RC」

1. ペタリングジャヤ・ロータリークラブの現況

- 3300 地区(マレーシア)
- 設立月日 1960 年 6 月 19 日(2 年後には創立 50 周年を迎える)
- 例会日:火曜日 12:45 ~
- 例会場:ペタリングジャヤ・ヒルトンホテル
- 会員数:46 名(ここ 2~3 年間は減少傾向にある)
- ホストしているインターアクトクラブ:7 クラブ総勢 400 名
- 姉妹提携クラブ(9 クラブ)
 - 市原 RC (日本)
 - RC of Bangalore(インド)
 - RC of Bangkok South(タイ)
 - RC of Hong Kong Island West(香港)
 - RC of Makati West(フィリピン)
 - RC of Sutherland(シドニー)
 - RC of Surfers Paradise East(クイーンズランド)
 - RC of Chungli(台湾)
 - RC of Banda Aceh(インドネシア)

○ 2007-08 年度重点奉仕活動

貧しい家庭の癌患者の子供を対象に週末旅行へ招待し、引率する。

灯台プロジェクト = C L E = Concentrated Language Encounter = 集中語学遭遇訓練 = 特殊な英語教育方法で、小学生を対象に英語教育を行う。

生徒補助計画 = 貧しい家庭の小学生を対象に、制服・靴・本の無償支給。

お祭り声援 = 4 つのお祭りで孤児達を楽しませる。

Hari Raya(イスラム)
Deepavali(ヒンズー)
Christmas(キリスト)
Chinese New Year(仏教)

スーパーキャンプ

インターアクターを対象にしたリーダーシップ教育プランで、一週間の合宿。

PDG Peter Chin を偲んで TAN SRI DATO JAMES PETER CHIN AWARD を 2002/03 年度に設け、毎年一回、地域社会奉仕活動としての寄付を行っている。毎年の創立記念晚餐会にてピーター・チン夫人メイ・チンがプレゼンターになって執り行われる。

2. ペタリングジャヤ RC の歴史 (2007/08 Member s Directory より)

ペタリングジャヤ RC は 1960 年 6 月 19 日、RC of Kuala Lumpur をスポンサークラブとして創立総会を開催し、1961 年 1 月 6 日に RI より認証状を授与した。チャーターメンバーは 35 名。最初の 15 年はペタリングジャヤ市の都市地域に最初の図書館と幼稚園を設立援助することに尽力した。一方、国は青少年育成に力点を置いた政策を強化したため、さらに一層の青少年活動に拍車がかかった。

次の 15 年(1975 ~ 1990)は地域社会奉仕活動として、学校給食、職業斡旋、RA, IA を通じての青少年意育成、バス停の設置、横断橋の建設等を行った。

1995 年以降は身体障害者や貧しい人々の救済、環境・健康問題、国際交流関係に重点を置いた。

最近はゴールデンチャイルド・プロジェクトと称して終末医療の子供達への援助、ボーリング等の遊戯を通じての物理的精神的な支援、ワクチン接種等を行っている。2005 年よりスーパーマム・プロジェクトを開始している。

3. 姉妹クラブ提携のはじまり

1974/75 年度に遡ります。創立 10 年を迎えたこの年度の会長・小出善三郎さんは、10 周年を迎えての記念事業として、海外に姉妹クラブを設けようと考えました。もっともこの時分を知っている会員は現在では斉藤 PDG と、この前年に入会したばかりの三木さんぐらいで、私はまだ存在しませんでしたから、皆さんからの口述でして、誤りがあるかも知れませんがお許し下さい。小出会長はなるべく市原 RC と同じような創立年数で、地域環境が近似しており、日本に好感を持っているようなアジア諸国の中から選びたいと考えていました。

2790 地区(当時は 279 地区)では台湾や韓国と姉妹提携しているクラブが多くありましたので、その他の国が良いといった欲張った意向を合わせて持っていました。これを受けて八幡で牧師さんをしていました石丸会員が推薦したのがペタリングジャヤ・ロータリークラブ(PJRC)であると聞いています。ペタリングジャヤ市はマレーシアの首都クアラルンプールに隣接した住宅地兼工業地であり、ちょうど市原市と同じような環境にあります。そしてクラブ創立は市原 RC より 4 年早い 1960 年です。早速にラブレターを送り、訪問して姉妹クラブ提携を結ぶことになったのですが、その間に色々な逸話が残っています。

小出会長を団長に 8 名程の訪問団がお邪魔したわけですが、「マレーシアでは多くの会員が例会へ象に乗って来るらしい」と信じていたそうです。一方ペタリングジャヤ RC のメンバーに後で伺ったのですが、「市原からの訪問団は帯刀して例会へ出席するそうだと噂していたようです。

多くの PJ ロータリアンが、遠来のお客様を出迎えるためにクアラルンプール空港へ集結したのですが、メンバーのひとりにスンドラムさんという陸運局の高官がおられまして、その方の計らいで黒塗りの公用車が飛行機に横付けになり、税関をノーチェックで入国する手はずになっていました。当時の飛行機は階段式のタラップがファーストクラスとエコノミークラスの 2 箇所にセットされるのですが、当然ファーストクラスから降りてくるものと判断して、そこにお迎えのクルマが横付けになりました。ところが我々一行はエコノミーのタラップを降りていった訳で、後々の語り草になっています。

姉妹提携を結んだ翌年の 1975 年 8 月にクアラルンプール赤軍派事件がありました。アメリカとスウェーデンの大使館を武力占拠し、アメリカ総領事を入質に取った事件です。市原 RC ではすぐに手紙を添えて見舞金を送付しました。その手紙には「これは極く一部の過激派日本人が引き起こした事件で、日本人を代表する行為ではなく、マレーシアの皆様にお詫びする」と言った内容だったのですが、PJRC ではこの手紙を新聞社へ投稿し、大きく掲載されたことから、それまで日本へ対する非難轟々だったマレーシア国民の感情を和らげるのに多いに寄与した、という話を伺いました。

4. 青少年の短期交換学生を開始

姉妹クラブ提携から 8 年目の 1982/83 年度・海上会長は、相互訪問を活発に繰り返して国際交流を高めていた両クラブですが、他クラブの姉妹クラブ交流を見ていて、このままではいずれは交流が下火になる心配がある、何か新しい

共同事業をすべきであると判断され、この年度の海上会長を団長とするマレーシア訪問の折に、インターアクターを対象とする相互の短期学生交換を提案されたのです。

この訪問団には私も加わっており、多少は記憶しておりますが、PJRCは当時4つのインターアクトクラブをホストしており、マハティール首相が提唱するルックイースト政策に呼応して、青少年育成には大変積極的でした。当方も県立京葉高校にインターアクトクラブをホストしており、この活性化に寄与できるプログラムだったからです。隔年で相互交換するとして、先ず最初は当方からの提案だから、PJから市原へ学生派遣をお願いし、次の年度は当方から送り出すこととなり、田丸年度の1983年12月に第一回の受入を実施したのです。当時の受入期間は2~3週間と長く、小出さんや白鳥さんがホストファミリーとしてご活躍されたのを覚えています。マレーシアは日本では想像もできないほど貧富の格差があります。選抜した学生の旅費は個々のロータリアンの寄付によるものだったようです。

次年度は当然ながら京葉高校のインターアクターがマレーシアへ派遣となったわけですが、受け入れるPJRCは大変な大騒ぎになったようです。大国日本から学生が来るということで、そのホストファミリーをどの家庭で引き受けてもらうか、どのようなタイムスケジュールを設けるか、といった指揮を取ってくれたのが、後に国際ロータリーの理事でありRI国際奉仕委員長を務めたピーター・チンさんの指導の基、新進気鋭の若手ロータリアンであったデビット・ホーさんが具体的指揮を取ったのです。ホーさんも後に3300地区(当時330地区)ガバナーを勤められています。

結果的には両クラブにとって大成功でして、今日まで四半世紀の間継続していることは大変喜ばしい限りです。市原RCとしてもバブル崩壊以降の経済的に厳しい時代にも皆様のご理解を得て何とかこのプログラムを継続できました。PJRCではこうした青少年の短期交換は、端に青少年の育成と言うことだけでなく、国際理解を深める最良手段だということで、オーストラリアとも香港とも学生交換を始められています。

5. 交換学生は両クラブのかすがい

私が始めてPJ交換学生のホストファミリーを引き受けたのは1988年だったと思います。女の子2名でした。その一人シャオ・アイリーンは日本が気に入ったのでしょうか、その後マレーシア政府派遣学生として筑波大学に留学してきて、同校を卒業後は日本人と結婚し、現在2人の娘を設けて茨城県牛久に在住しています。

もう一人のメイ・リンはシドニーの大学を卒業して会計士となり、5年ほど前に華僑系マレーシア人と結婚して幸せに生活しています。私ども夫妻と南山夫妻がその結婚式に招待を受けて出席してまいりました。500名を越える大披露宴でしたが、これはマレーシアの結婚式ではそんなに珍しい人数ではないようです。ただ、その内の100名ぐらいはPJRC会員とご夫人達で、まるでクラブの記念例会のようで、彼らメンバーの結束力を見せ付けられる思いでした。その後十数名の交換学生をホストしていますが、それぞれに忘れられない思い出があります。それは私だけでなく多くの市原ロータリアンが共有する喜びでしょう。最近では、PJRCは会員の子弟や親戚の子供を送り出すケースが増えています。その為に双方の会員家族が友達となり、プライベートの交流が進んでいるお話を聞く機会が多くなりました。それで思い出のですが、小出善三郎さんが市原RCを退会されて市長になられたあとの話しですが、何かの宴席で小出さんが言われたことを鮮明に覚えています。

「本当の国際人というのはどういう人をいうのでしょうか。それは外国語に堪能とか、海外へ頻りに旅行しているとかということでは無いと思います。一人で良いから海外に親友を持っている人のことだと思えます」と言われたのです。しかり名言だと思えます。親身になって世話したり、世話されたりする外国人を友達に持つことが、どれだけ国際交流理解を高めるか、このプログラムが証明しています。

6. 私が知るマレーシア

マレーシアが英国領から独立したのは1957年で、国家としての歴史は50年たらずです。大東亜戦争で日本軍が攻め入ったといっても、山下大将率いる銀輪部隊がマレー半島の東西を自転車で南下し、シンガポールに到達する間は、ほとんど戦いらしい戦いはなかったようです。むしろ英国の植民地支配から脱却する基を作ってくれたと言う日本軍への感謝の気持ちもあるようです。英国植民地時代に多くの中国人やインド人が英国人に伴って入国しています。ですから現地マレー人が7割、中国人が2割、インド人その他で1割という多民族国家です。ロータリアンの7割は華僑系中国人でして、この華僑系中国人が経済面を支配していると言ってよいでしょう。

行政面のほとんどはマレー人です。インド系住民には医者やエンジニアが多いようです。それぞれに宗教が違いますし、生活レベルにも大きな格差があります。これを知ることにつれて日本が単一国民である幸せをつくづくと感じます。でも、郷に入っては郷に従えで、仏教徒の中国人もマレー

シアでは同居の身ですし、お礼の無いマレー人に笑顔で恵みを与えねばならないのでしょ。

所詮は外国から流れてきた中国人にはマレー系住民への遠慮があるようです。10年ほど前になるでしょか、インドネシア暴動というのがありました。学生のデモに始まり中国系の商店や工場を現地人が襲うという暴動がありました。実はその前にも小規模ではありましたが、マレーシアでも同様な暴動事件があったのです。頭も良く勤勉な中国人はどうしても経済的に支配する立場になります。それに対してのんびりおっとり型のマレー人には嫉みに近い勘定が潜在的にあるのかもしれない。私が最初にマレーシアを訪問した25年前には、スラム街に行きますと6畳一間の家に10人以上の家族が生活しており、町を歩く住民も裸足の人が多かったように記憶しています。それに引き換え華僑系の子供達が通う小学校には各教室にクーラーが入っていました。勿論、ここ20年間では毎年7~15%の経済発展を続けているマレーシアですから、現在では裸足の人はいませんし、東京都心と同様の高層ビルが立ち並ぶクアラルンプールのダウンタウンはラッシュ時ともなりますと、クルマの洪水で、渋滞は東京以上でしょう。

私が最初にマレーシアを訪問した切っ掛けは大変不純なものでした。姉妹クラブを締結して数年立ったころに、P.J.R.Cから「恵まれない子供たちに靴を寄贈したいので協力して欲しい」という寄付の要請がありました。当時東南アジアと姉妹クラブ提携をしていた多くのロータリークラブの悩みが、何に付け寄付の要請を日本へしてくることでした。やっぱりマレーシアも同じか。実際に子供たちへ靴の寄贈がされるのか、という疑問がありまして、寄付をするのならこの目で現地を見極めたいと思い、最初の訪問になったのです。P.J.R.Cのメンバーと同行してマレー系小学校を訪問しました。白いスカーフを頭にかぶった可愛い女の子たちが、教室から我先に飛び出してきました。その子供たちの足のサイズに合わせて靴を選んで手渡した記憶があります。その子供たちの輝いた眼差しはしっかり覚えています。また、ロータリー夫人と同行してクアラルンプール市街の公園で、大鍋にいっぱい雑炊のようなものを作り、恵まれないマレー人に汲んで渡したことがあります。その時不思議に感じましたのは、食べものをもらうマレー人が頭ひとつ下げるわけではなく、対等な口調でロータリー夫人と会話しながら受け取っていきます。

そういえば中東へ出張していたある石油開発に携わる人の話を思い出しました。イスラムの教えでは裕福な人が貧しい人に施しを与えることは当然のことで、むしろ貧しい人は裕福な人へ奉仕する喜びを味あわせているのだ、という話を聞いた

たことがありました。私たち仏教徒にはどうしても理解しにくい一面です。

7. 若い会員にこの良き関係を引き継いで欲しい

マレーシアは人口2600万人で、その半数が24歳以下という若い国です。最近の日本の若い人は欧米へ学ぶことが多いように思いますが、これからの将来を考えたときに日本はもっともっと東南アジアと親交を深めるべきだと考えます。何と言っても肌の色が同じだということは、ルーツが同じということで親近感が持てますし、何よりもこれからはアジアの時代です。

最近の両クラブの交流はデビット・ホーと私が何かにつけて両クラブの窓口になることが多かったかと思えます。二人は同年です。先般もメールで、お互いに若いとは言えない歳になってきたし、次の両クラブを担う会員にバトンタッチを考えていかねばならないと話し合いました。

そこで特に新しい会員の皆様へお願いです。海外に真の友達を作るチャンスが、このように安直に得られるのはロータリアンの特権です。是非機会を設けてP.J.R.Cに友達を作ってください。皆さんが来週ペタリングジャヤを訪問したとしても、市原RCのメンバーということだけで、大歓迎して迎えてくれるはずですよ。また、P.J.R.Cは再来年の6月に創立50周年を迎えますから、その前に招待状が届くのは必然で、そんなチャンスには是非とも大勢でエントリーしてやりたいものです。P.J.R.Cにも素晴らしい若者ロータリアンが揃っています。出会いを楽しんで下さい。

短期交換学生として皆様のお子様やお孫さんを送り出して見て下さい。先方から来る子供たちを皆さんの家庭に迎え入れてみてください。きっと国際奉仕の素晴らしさを満悦できると思います。33年間たゆまず交流を続けている姉妹クラブ関係は日本中探してもめったに無いでしょう。25年間の交換学生を続けているのですから、おそらく130名以上の青少年が両国を行き来しています。その子供たちが持つ両国の国際関係は民間の国際奉仕活動としては他に類の無い、我々が誇れる奉仕活動であると自負しています。ロータリーは偉大です。この関係を更に拡大発展して下さいますようお願いいたします。

ニコニコ・ソーリーボックス

上條会員 まとまらない卓話で失礼しました。

P.J.R.Cとの国際交流を今後も宜しく願います。

出席報告

前々回確定 78.4%	本日出席者 40名
本日欠席者 11名	本日出席率 78.4%